

**内閣総理大臣杯争奪  
第41回日本車椅子バスケットボール選手権大会  
個人トータル表**

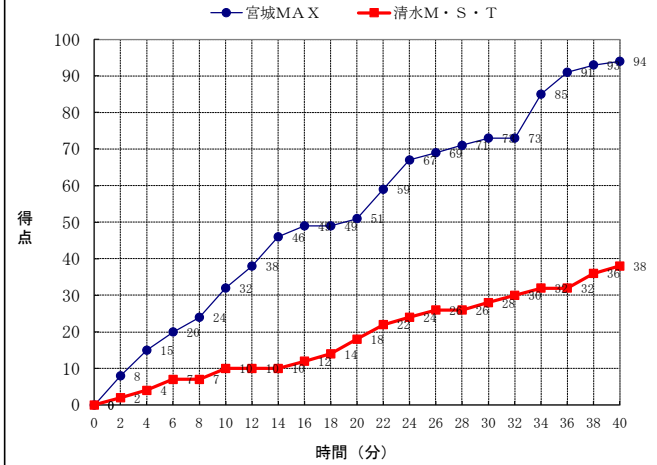
2013年5月3日 16時00分開始  
1回戦 東京体育館 A - 1

◎  
**宮城MAX** 94 (東北)  
32 1クォーター 10  
19 2クォーター 8  
22 3クォーター 10  
21 4クォーター 10  
38 **清水M・S・T** (近畿)

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
* 4	豊島 英 (2.0)	20	0	4	12	-	-	1	4	向山 佳宏 (3.0)	-	-	-	-	-	-	-
* 5	藤本 怜央 (4.5)	15	0	7	1	-	-	3	* 5	川西 恵三 (2.0)	0	0	0	0	-	-	2
6	東海林 和幸 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0	6	井上 順 (2.0)	2	0	1	0	-	-	4
7	五十嵐 雄也 (2.5)	6	0	3	0	-	-	0	7	植田 真悟 (2.0)	2	0	1	0	-	-	2
* 8	佐藤 聡 (1.0)	12	0	6	0	-	-	2	* 10	佐野 裕明 (4.0)	10	0	5	0	-	-	4
9	増渕 倫己 (3.0)	9	0	4	1	-	-	1	* 11	西川 雅敏 (3.0)	6	0	3	0	-	-	2
* 10	中澤 正人 (4.0)	13	0	5	3	-	-	2	12	福井 俊一 (2.5)	4	0	2	0	-	-	4
11	加藤 芳博 (3.0)	3	0	1	1	-	-	0	13	是友 京介 (3.0)	4	0	1	2	-	-	4
13	高橋 浩則 (2.5)	2	0	1	0	-	-	1	* 14	柏村 洋平 (1.0)	0	0	0	0	-	-	2
14	向後 寄夫 (1.5)	8	0	4	0	-	-	1	15	戸田 学 (3.0)	0	0	0	0	-	-	1
* 15	藤井 新悟 (1.5)	6	0	3	0	-	-	1	16	緋田 高大 (1.0)	0	0	0	0	-	-	1
16	菅原 志朗 (1.0)	0	0	0	0	-	-	-	17	松田 日出男 (3.0)	2	0	1	0	-	-	2
									18	川原 義光 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0
									19	武田 茂 (1.5)	2	0	1	0	-	-	1
									* 21	黒木 新吾 (4.0)	6	0	3	0	-	-	1
HC	岩佐 義明								HC	戸田 学							
AC	石川 大介								AC	龍田 章一							
メンバー	岩佐 望美								メンバー	谷口 佳代							
メンバー	生畑目 有希								メンバー	本郷 裕							
メンバー	会田 優								メンバー	佐野 香織							
	岩佐 康太								メンバー	井上 元太郎							
合計		94	0	38	18	0	0	12	合計		38	0	18	2	0	0	30

主審： 加藤 昌樹  
副審： 斎藤 登  
副審： 吉安 ゆみ

得点経過



〔 戦 評 〕

(担当：長田／小滝／岩崎)

1 Q 宮城MAXは4番5番8番10番15番 清水MSTは5番11番14番21番10番のスターティングメンバーで開始。  
宮城MAX8番の連続シュートから始まった。清水MSTはインアウトから攻めるもシュートが外れる、宮城MAXの5番はディフェンスを固められ5分経ってもポイントが入らない、しかしローポインターの活躍で15対4と宮城MAXがリード。  
清水MSTのメンバーチェンジで13番15番が入り、13番がボールコントロールを始め流れが少し変わり始めるが、第1Q32対10宮城MAXがリード。

2 Q 清水MSTがマンツーマンディフェンスを仕掛け始めるも2Qも前半からファールがかさむ。そのため宮城MAXにフリースローを与えてしまいポイントが広がる。3分経って40対10。  
2Q後半は清水MSTのディフェンスも良くなり、宮城MAXのポイントも伸びなくなってきたが2Qは51対18で宮城MAXがリード。

3 Q 試合が始まって宮城MAXは速攻でポイントを重ねる。一方清水MSTはオールコートマンツーマンで挑むも宮城MAXに崩されファールが増えていく、5分経って67対24。  
清水MSTはメンバーチェンジを繰り返し、逆転しようと応戦、ディフェンスもゾーン、マンツーマンを使い分けファールも減り少しずつ点差を詰めるが、73対28で第3Qは終了。

4 Q 宮城MAXは4Q始まりも速攻でポイントを加算、清水MSTはアウトシュートで応戦、残り5分で宮城MAXは4人メンバーを交代する。攻撃方法は変わらず速攻からのランニングシュートでポイントを稼いでいく。残り3分91対32と点差は開いていくが清水MSTもインサイドからのシュートが決まり始め、流れを変えようとする。  
残り40秒で清水MSTがタイムアウトを取り、最後まで諦めない姿勢が見えた。しかし、宮城MAXの勢いは止まらず、順調にポイントを重ね、94対38で宮城MAXの勝利。